

会 議 録

1 会議名

令和2年度 第1回 上越市博物館協議会

2 議題

(1) 開館2年目及び令和元年度事業の成果について（公開）

- ・上越市立歴史博物館
- ・上越市立水族博物館

(2) 令和3年度事業計画について（非公開）

- ・上越市立歴史博物館
- ・上越市立水族博物館

(3) 鯨類の死亡について（公開）

- ・上越市立水族博物館

3 開催日時

令和2年8月6日（木）午後1時30分から

4 開催場所

上越市立歴史博物館 講堂

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

ア 委員

川村知行、浅倉有子、増田小夜子、天野和孝、関谷伸一、大山賢一、岩井文弘

イ 事務局

- ・中西歴史文化指導監
- ・文化行政課 新保課長
- ・教育総務課 新部課長、柳澤副課長、力久係長
- ・歴史博物館 宮崎館長、花岡副館長、一越主任、荒川主任
- ・水族博物館 櫻館長

7 発言の内容

議題（1）～（3）については部会（博物館部会・水族博物館部会）に分かれて行い、その後全体会を行った。

(1) 開館2年目及び令和元年度事業の成果について（公開）

ア 上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料 1～9 ページに基づき説明】

(増田委員) 高田図書館でも出前展示というのをやっていて、図書館に行く度に展示をみているが、場所が悪いのかとても良い内容のものなのに入館者の導線が展示の方へ向かない。あの出前展示はこれからも続けるのか。

(花岡副館長) 高田図書館で行っている出前展示は上越市役所の総務管理課公文書センターが行っている事業である。公文書センターと高田図書館のそれぞれの需要が一致して図書館を会場に行っている事業である。同じ内容の事業を博物館で行うということは考えていない。ご提案いただいた展示場所については、「もっと良い場所にならないか」ということを高田図書館と公文書センターに伝えさせていただきたい。

(川村委員長) 現在開催中の企画展については、入館者の状況はどうか。

(花岡副館長) 4月から7月上旬にかけて新型コロナの影響で入館者数が落ち込んでいたが、夏休みに入り現在の企画展がはじまって以降はおよそ平年に近い数字にまで戻ってきている。今回の企画展の効果かと考えているが、詳細な分析は今後行っていきたい。

(川村委員長) 追加資料の「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応状況」についての説明はあるか。

(花岡副館長) 新型コロナウイルスによる入館者数への影響についてグラフでお示ししているが、昨年度と今年度を比べると観桜会のある4月で27,557人の減、またゴールデンウィークの5月も昨年度とくらべて今年は5,127人の減が確認できる。7月は昨年度に比べてプラスに転じてきた。これは企画展に加えて7月5日に御城印の特別版を販売した際に1,000人くらい来られたので、その結果が反映されている。

(川村委員長) 新型コロナの対応については、政府や新潟県のガイドラインに従って博物館の閉館・開館を決定していたようだが、今後も状況によっては政府や県の方針に従うことになる。今年度の数字は全く参考にならない数字だろう。

イ 上越市立水族博物館

【水族博物館資料 1～11 ページに基づき説明】

(天野委員) 新型コロナウイルス感染症対策として段階的な入館制限を実施したとのことだ

が、その経過はどうであったか。

(櫻館長) 臨時休館解除当初は 300 人、6 月下旬に 500 人、7 月上旬に 700 人、7 月 23 日から現在までは 900 人と推移している。

(大山委員) これまでを振り返って、課題はあるか。

(櫻館長) 飼育展示面に関しては、職員の知識や技術の向上が必要である。運営面に関しては、情報発信手法の更なる工夫が必要である。また、新型コロナウイルス感染症のような事案に対する危機管理対策の強化が必要である。

(関谷委員) 入館者の意見を聴く仕組みはあるか。

(櫻館長) 館内に入館者アンケートを配置し、意見を聴き取っている。

(岩井委員) 音とゴミをテーマとした特別展の実施は、大変興味深いものであったと考えるが、集客面での効果はどうであったか。

(櫻館長) 特別展の集客効果を検証することは困難であるが、明確に特別展をターゲットとした入館者は多いとは言えないと考える。メディアを通じた情報発信を強化していきたい。

(力久係長) 特別展については、特定のテーマに基づき、常設展示では伝えることが困難な情報を提供することにより、学習を深めてもらうということが目的の一つであり、博物館として重要な活動である。集客面も重要であるが、それだけでは評価できないものである。

(岩井委員) 音とゴミについては、国内の多くの水族館において、展示のテーマとして採用されているものか。

(櫻館長) 音については、展示テーマとして採用されている例もあるが、今回の特別展については、さまざまな工夫を施し展示を行ったものである。ゴミについては、社会問題として取り上げられているマイクロプラスチックに焦点を当て、展示を行ったものである。

(関谷委員) 音については、イルカのエコーや水中スピーカー、ゴミについては、水生生物の誤食などについて、今後の展示に取り入れてもらいたい。

(天野委員) リピーターの割合はどの程度か。

(櫻館長) 現在のところ正確な割合を把握できていない。

(天野委員) 今後のことを考え、リピーターの割合を把握するべきである。

(関谷委員) 年間入館券の購入状況はどうか。

(櫻館長) 2 年目であることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響から購入者は減少

している。

(2) 令和3年度事業計画について（非公開）

ア 上越市立歴史博物館

イ 上越市立水族博物館

(3) 鯨類の死亡について（公開）

【水族博物館資料 15～17 ページに基づき説明】

(天野委員) 海水はどこから取水しているのか。

(櫻館長) 水族博物館の前浜の約800m沖合である。

(天野委員) 太平洋側との水質の違いの影響はどうか。

(力久係長) 魚類は水質に依存するが、海生哺乳類は魚類とは状況が異なるため、海水の水質が影響したとは考えにくい。また、水族博物館においては、日常的に取水している海水の水質を測定しているが、通常測定している項目以外の要素が影響している可能性がないとは言えない。検証委員会では、そのような事項を含め検証を行う。

(大山委員) 死亡した個体は保存されていないと思うが、検証は記録をもとに行うのか。

(櫻館長) 記録をもとに行う。

(力久係長) 個体については、死亡した際の病理解剖を行っているほか、日々の飼育記録や検査記録があるため、それらをもとに検証を行う。

(関谷委員) 水族博物館の個体の死亡原因を他の園館の個体の死亡原因と比較した場合、特異なものであるか否かは検証しているか。

(櫻館長) 今後、検証を行う。

(関谷委員) 日本海には、カマイルカが多数分布していると認識しているが、鯨類を補充する場合は、カマイルカの方が容易に取得できるのではないか。

(櫻館長) 従前、国内で鯨類を取得する場合は、和歌山県太地町の追い込み漁で捕獲された個体を取得してきたが、現在、水族博物館を含む日本動物園水族館協会加盟園館は追い込み漁で捕獲された個体の取得を禁止されている。そのため、カマイルカであっても取得は容易ではない。

(大山委員) 検証委員会を尊重して、検証作業を進めていただきたい。

(新部課長) 8月7日（金）に第1回目の検証委員会を開催する。鯨類の死亡について

は、市民をはじめ多くの方の大きな関心事ではあるが、誤った情報が伝わってしまうと水族博物館の運営自体に影響する可能性もあり、情報を慎重に取り扱う必要がある。今後、検証結果がまとまった段階で、結果を報告したいと考えている。

8 問合せ先

教育総務課

TEL : 025 - 545 - 9243

E-mail : ks-kikaku@city.joetsu.lg.jp

上越市立歴史博物館

TEL : 025 - 524 - 3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。